

安全データシート(SDS)

作成日 2010年12月20日

改定日 2017年1月10日

1. 製品及び会社情報

製品名: ファルコン シャーク
 会社名: パワーアップジャパン株式会社
 住所: 東京都世田谷区深沢1-9-9
 電話番号: 03-3705-3251
 FAX番号: 03-3705-3201

製品分類: 41080040
 主な用途: 自動車用窓に用いる油膜取り剤

2. 危険有害性の要約

国・地域情報:

消防法: ・危険物の規則に関する政令・規則
 労働安全衛生法: ・施行令別表1 四(引火性の物質)
 ・第2種有機溶剤(メタノール)
 ・第57条第1項(表示対象物質)
 メタノール
 ・第57条の2第1項(通知対象物質)
 メタノール(25.0wt%以下)

GHS分類:

物理化学的危険性: 分類対象外、分類できないまたは区分外
 引火性液体 区分3

健康に対する有害性:
 急性毒性(経口) 区分外
 眼に対する重篤な損傷性
 /眼刺激性 区分2A
 生殖毒性 区分1B
 区分1
 特定標的臓器・全身毒性
 (単回ばく露) (中枢神経系、視覚器、全身毒
 性)
 区分3(気道刺激性、麻酔作用)
 区分1
 特定標的臓器・全身毒性
 (反復ばく露) (中枢神経系、視覚
 器)

環境に対する有害性:
 水性環境有害性(急性) 区分3

*上記に記載がない危険有害性は、分類対象外または分類できない。

GHSラベル要素:

絵表示:



注意喚起語:	危険	H code
危険有害性情報:	・引火性液体及び蒸気	(H226)
	・強い眼刺激	(H319)
	・生殖能又は胎児への悪影響のおそれ	(H360)
	・中枢神経系、視覚器、全身毒性の障害	(H370)
	・呼吸器への刺激のおそれ、または、	(H335)
	眠気またはめまいのおそれ	(H336)
	・長期または反復ばく露による臓器(中枢神経系、	(H372)
	視覚器)の障害	
	・水生生物に有害	(H402)

注意書き:

〔安全対策〕

- ・熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。-禁煙
- ・この製品を使用する時には、適切な個人用保護具（ゴム手袋、保護眼鏡、マスク等）及び作業衣を着用すること。
- ・容器を密閉しておくこと。
- ・容器を接地すること、アースをとること。
- ・防爆型の電気機器、換気装置、照明機器を使用すること。
- ・静電気放電に対する予防措置を講ずること。
- ・火花を発生しない工具を使用すること。
- ・使用前に取扱説明書を入手すること。
- ・取扱い後は、うがいをして、手、顔などをよく洗うこと。
- ・全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- ・屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。
- ・この製品を使用する前に飲食または喫煙をしないこと。
- ・製品の容器は、転倒、落下、衝撃、引きずりなど、乱暴な取扱いをしないこと。
- ・粉塵/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸引を避けること。
- ・汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
- ・ばく露またはばく露の懸念がある場合：医師の診断/手当を受けること。
- ・漏出物を回収すること。
- ・火災の場合には、消火に炭酸ガス、耐アルコール性消化剤、粉末消化剤を使用すること。
- ・環境への放出を避けること。

〔応急措置〕

- ・吸入した場合：空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- ・飲み込んだ場合：直ちに医師の診断を受けること。
- ・眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを容易に外せる場合には外して洗うこと。その後も洗浄を続けること。
- ・皮膚に付いた場合、多量の水と石鹸で洗うこと。
- ・気分が悪い時は、医師の診断/手当を受けること。
- ・眼の刺激が続く場合は、医師の診断/手当を受けること。

〔保管〕

- ・容器は密閉し、換気の良い冷暗所で保管すること。
- ・施錠して保管すること。

〔廃棄〕

- ・内容物及び容器の廃棄は、都道府県知事の許可を受けた 専門の廃棄物処理業者に委託すること。

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区分 混合物

成分名	含有量 wt%	CAS No.	化審法 No.	安衛法 No.	PRTR法No.	毒劇法
陰イオン系界面活性剤	2.0以下	登録済	登録済	非該当	非該当	非該当
メタノール	25.0以下	67-56-1	登録済	該当*1	非該当	非該当
硬水安定剤	0.1以下	登録済	登録済	非該当	非該当	非該当
染料	微量	非公開	非公開	非該当	非該当	非該当
水	75.0以上	7732-18-5	非該当	非該当	非該当	非該当

- ・化審法：化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律(化審法)官報公示整理番号
- ・安衛法：労働安全衛生法(安衛法)第57条の2第1項政令指定物質
*1:製品中にメチルアルコールとして25.0wt%以下含有(表示・通知)
- ・PRTR法：特定化学物質の環境への排出量の把握及び管理の改善の促進に関する法律(PRTTR法)対象化学物質の政令番号
- ・毒劇法：毒物及び劇物取扱法の劇物指定物質

4. 応急措置

- 吸入した場合：
 - ・吸入して気分が悪くなった場合は、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させ、気分の戻らない時は医師の診断を受けること。
 - ・呼吸していて嘔吐のある場合は頭を横向きにする。
 - ・呼吸の弱い場合は人口呼吸や酸素吸入を行う。
 - ・上記、症状のある場合は直ちに医師に連絡すること。
- 皮膚に付着した場合：
 - ・直ちに汚染した衣類、靴を脱ぎ、石鹼を用いて多量の水で汚染した部位を洗い流すこと。この製品は引火性があるので、火気に注意して措置する。
 - ・汚染した衣類を再使用する場合は洗濯してから使用すること。
 - ・皮膚刺激または手荒れや発疹・水泡などが生じた場合は、直ちに医師の診断を受けること。
- 眼に入った場合：
 - ・直ちに清浄な水で最低15分以上洗眼する。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外し眼球まぶたの隅々まで水が良く行きわたるように洗浄すること。眼に入ったまたは眼に入った懸念がある場合及び眼の刺激は続く場合は医師の診断を受けること。
- 飲み込んだ場合：
 - ・直ちに水で口の中を洗浄し、コップ1～2杯の水を飲ませ直ちに医師の診断を受けること。無理に吐かせないこと。
 - ・被災者に意識のない場合は、口から何も与えてはならない。
 - ・子供などが飲み込んだ懸念のある場合、直ちに医師の診断を受けること。

*いずれの場合においても直ちに医師の診断を受けること。

5. 火災時の措置

- | | |
|--------------|---|
| 消火剤: | <ul style="list-style-type: none"> 水/炭酸ガス/粉末消火剤/アルコフォーム/泡消火剤 |
| 使ってはならない消火剤: | <ul style="list-style-type: none"> 棒状注水は避けること。(散水、噴霧水にて消火を行う。) |
| 特有の有害危険性: | <ul style="list-style-type: none"> 燃焼した場合、一酸化炭素等の他、窒素酸化物系のガス等の有毒ガスが含まれるので、消火作業の際には、煙を吸引しないように注意すること。 |
| 特有の消火方法: | <ul style="list-style-type: none"> 可燃性のあるものを周囲から取り除く。 関係者以外は安全な場所に退去させる。 火災発生場所の周辺に関係者以外の立ち入りを禁止する。 消火作業は、可能な限り風上から行う。 大規模火災には消火剤を使用する。 消火のための放水等により、環境に影響の及ぼす物質が流出しないよう適切な措置を行う。 |
| 消火を行う者の保護: | <ul style="list-style-type: none"> 適切な保護具(保護手袋、保護マスク、保護眼鏡)を着用する。 |
-

6. 漏出時の措置

- | | |
|-------------|--|
| 人体に対する注意事項: | <ul style="list-style-type: none"> 屋内の場合、処理が終るまで十分に換気を行う。 漏出時の処理を行う際には、必ず保護具を着用すること。(ゴム手袋、保護眼鏡、マスク等) 漏出した場所の周辺にロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。 作業の際には適切な保護具を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、粉塵、ガスを吸入しないようにする。 風上から作業し、風下の人を退避させる。 着火した場合に備えて、消火用器材を準備する。 屋内で漏洩した場合は十分に換気を行うこと。 こぼれた場所はすべりやすいために注意する。 |
| 環境に対する注意事項: | <ul style="list-style-type: none"> 流出した製品が河川等に排出され、環境へ流出しないように注意すること。 付着物、廃棄物は都道府県条例に基づいて処理する。 有害でなければ、火気、換気等に充分注意して、蒸発、拡散させる。又は、散水して蒸発を促進させてもよい。 |
| 回収、中和の方法: | <ul style="list-style-type: none"> 少量の場合:土砂、おがくず、布切れ等に吸収させ周辺への流出を防ぐこと。 多量の場合:盛り土などで囲って流出を防止し、ポンプ等でできるだけ回収すること。 廃棄物は関連法令に基づいて処理すること。 |

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い上の注意:

- ・使用前に取扱説明書を入手すること。
- ・製品記載の使用上の注意を良く読み、用途以外に使用しないこと。
- ・全ての安全注意を読み、理解するまで取り扱わないこと。
- ・妊娠中、授乳期中は接触を避けること。
- ・熱・火花・裸火・高温のもののような着火源から遠ざけること。
- ・静電気放電に対する予防措置を講ずること。
- ・容器を接地(アース)をすること。
- ・火花を発生しない工具を使用すること。
- ・防爆型の電気機器(換気装置、照明機器等)を使用すること。
- ・漏れ、あふれ、飛散しないようにし、みだりに蒸気を発生させないこと。
- ・粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
- ・取扱いは、換気の良い場所で行う。取扱をしないこと。
- ・取扱い中は、誤飲の恐れがあるので、飲食、喫煙を行ってはならない。
- ・この製品を使用する時に、飲食をしないこと。
- ・取扱いの都度、容器を密閉する。
- ・取扱い後はよく手を洗うこと。

保管上の注意:

- ・製品記載の保管条件を読み、適切に保管すること。
- ・容器を密栓すること。
- ・雨水のあたる場所、高温多湿化、直射日光下を避け0℃以下、40℃を超える場所に保管しないこと。(涼しい所、換気の良い場所で保管。)
- ・保管に際しては、施錠すること。
- ・熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。

安全な容器包装剤材料

- ・ポリエチレン容器に保管すること。

8. ばく露防止及び保護措置

許容濃度:

許容濃度	管理濃度 (厚生労働省)	許容濃度 (日本産業衛生学会、2009年度版)	ACGIH(2010) TWA
メタノール	200ppm	200ppm	200ppm
陰イオン系界面活性剤	記載なし	データなし	データなし

設備対策:

- ・作業内で取り扱う場合は、吸排気が十分取れる設計にすること。
- 呼吸器の保護具: 必要に応じて有機ガス用マスクを使用する。
- 眼の保護具: 必要に応じて保護眼鏡を使用する。
- 皮膚、身体の保護具: 必要に応じて耐油性保護手袋、保護前掛けを使用する。
- その他: なし

9. 物理的及び化学的性質

外観:	黄色透明液体
臭気:	アルコール臭
pH:	7(20℃)
融点・凝固点:	データなし
沸点・初留点:	100℃以下
引火点:	35℃タグ密閉式
自然発火温度:	データなし
爆発範囲:	下限:5.5vol% 上限:44vol%(メタノールとして)
蒸気圧:	12.3lpa(メタノールとして)
密度:	2.1(空気=1)
比重:	0.96(20℃)
溶解度:	水に対する溶解性 易溶
オクタノール／水分配係数:	log Pow=-0.81/-0.66(メタノールとして)
分解温度:	データなし
粘度:	データなし

10. 安定性及び反応性

安定性:	・通常の取扱いにおいて安定。
可燃性:	・なし
酸化性:	・なし
反応性:	・強酸化剤と混合すると発熱する。
自己反応性・爆発性:	・なし
避けるべき条件:	・加熱、熱源、裸火 ・強酸化剤と接触を避ける。
混触危険物質:	・強酸化剤(引火性物質の為、強酸化剤との接触を防ぐこと。)
危険有害な分解生成物:	・燃焼により一酸化炭素、ホルムアルデヒドを発生する可能性がある。 ・過酸化水素と混触したものは、衝撃により爆発する。

11. 有害性情報

急性毒性(経口):	区分外	>2,000mg/kg(ATEmix)
急性毒性(経皮):	区分外	>2,000mg/kg(ATEmix)
急性毒性(吸入:蒸気):	分類できない	データ不足
皮膚腐食性/刺激性:	分類できない	データ不足
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性:	区分2A	眼区分2A \geq 10%
呼吸器感作性:	分類できない	データ不足
皮膚感作性:	分類できない	データ不足
変異原性(生殖細胞変異原性):	分類できない	データ不足
発がん性:	分類できない	データ不足
生殖毒性:	区分1B	生殖毒性物質区分1 \geq 0.3%
特定標的臓器/全身毒性-単回ばく露:	区分1	特定標的臓器毒性物質区分1 \geq 10%
	区分3	中枢神経系、視覚器、全身毒性
特定標的臓器/全身毒性-反復ばく露:	区分1	特定標的臓器毒性物質区分1 \geq 10%
		中枢神経系、視覚器
吸引性呼吸器有害性:	分類できない	データ不足

12.環境影響情報

水生環境有害性(急性):	区分3	分類される成分の合成>25%
水生環境有害性(長期間):	分類できない	データ不足
オゾン層への有害性	分類できない	データ不足

13.廃棄上の注意

残余廃棄物:	<ul style="list-style-type: none"> 都道府県知事の認可を受けた産業廃棄物処理業者や、収集運搬業者と委託契約して処理すること。 取扱いについては、「7.取扱い及び保管上の注意」を参照。
汚染容器および包装:	<ul style="list-style-type: none"> 内容物を完全に除去した後、法規に従い産業廃棄物処理業者等に処分を委託する。

14.輸送上の注意

国内規制	
陸上規制情報:	<ul style="list-style-type: none"> 適用される法律はない。
海上規制情報:	<ul style="list-style-type: none"> 船舶安全法に定められている輸送方法に従う。
航空規制情報:	<ul style="list-style-type: none"> 航空法の規定に従う。

国際規制

国連番号:	•1993
国連分類:	•クラス3
容器等級:	•III

15.適用法令

消防法:	<ul style="list-style-type: none"> 危険物の規則に関する政令・規則
労働安全衛生法:	<ul style="list-style-type: none"> 施行令別表1 四(引火性の物質) 第2種有機溶剤(メタノール) 第57条第1項(表示対象物質) メタノール 第57条の2第1項(通知対象物質) メタノール(25.0wt%以下)
化学物質排出把握管理促進法(PRTR法):	<ul style="list-style-type: none"> 非該当
毒物及び劇物取締法:	<ul style="list-style-type: none"> 非該当
化審法:	<ul style="list-style-type: none"> 優先評価化学物質 No.090:メタノール
船舶安全法:	<ul style="list-style-type: none"> 知見なし
海洋汚染防止法:	<ul style="list-style-type: none"> 有害液体物質(Y類物質:メタノール含有)
その他:	<ul style="list-style-type: none"> 知見なし

16.その他の情報

参考文献

1. 国連GHS文書 改定4版(2012)
2. JIS Z 7252:2009「GHSに基づく化学物質等の分類方法」
3. JIS Z 7253:2012「GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法
ーラベル, 作業場内の表示及び安全データシート(SDS)」
4. 独立行政法人 製品評価技術基盤機構(NITE)公開データ
5. 日本オートケミカル工業会「製品安全データシート作成指針改訂版」
6. 化学工業日報社「15107の化学商品」(2007)
7. 講談社「溶剤ハンドブック」
8. 弊社入手の製品安全データシート及び入手資料

*注意

安全データシートは危険有害な化学製品について、安全な取扱いを確保するための参考情報として、取り扱う事業者提供されるものです。取り扱う事業者は、これを参考として、自らの責任において、個々の取り扱いなどの実態に応じた適切な処置を講ずることが必要であることを理解した上で、活用されるようお願いいたします。
従って、本データシートそのものは、安全の保証書ではありません。